

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子どもの発達と現代社会						授業形態		講義	
科目コード	750159	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	渡邊 光浩、宮内 孝、遠藤 晃、早川 純子、藤本 朋美、吉田 健、河野 康男、後藤 吉道、山之内 幹、川田 耕太郎、神垣 彬子、石本 隆士								ICT活用	○
授業概要	本授業は、「子どもスペシャリスト」に至る今後4年間の学びの道筋を示す入門的な講義であり、現代社会における教育的課題とその解決へ向かうアプローチについて、様々な視点（専門性）から取り扱うものとします。そのため、授業は、子ども教育学科の教員がオムニバス形式で担当し、学科の3本柱である子どもの心身・地域・自然環境という観点から、多面的かつ総合的な視野を持って現代社会の教育的課題について学びます。（オムニバス方式 / 全15回）									
関連する科目	特にありませんが、子ども教育学科でのこれからの授業の多くにつながっていきます。									
授業の進め方 と方法	子ども教育学科の3本柱である子どもの心身・地域・自然環境という観点から、各回ごとにそれぞれの教員が専門性をもとにしたテーマに沿って、現状と課題、解決への手立てについて講義を行うオムニバス形式になります。									
授業計画 【第1回】	オリエンテーション（渡邊） 子どもたちを取りまく現代社会の課題について、解決に向けた取り組みと、本学科で目指す「子どもスペシャリスト」の役割や4年間の学びの概要を理解します。また、第2回以降の予定を示し、どのような準備と取り組みをしていくのか話をします。									
授業計画 【第2回】	子どもの心身① 子どもの心と心理学（神垣） 子どもたちの心を考えるために必要な心理学的視点について講義します。									
授業計画 【第3回】	子どもの心身② 子どもとメディア（渡邊） 現在の小学生や乳幼児のICT（情報通信機器）の利用の実態や課題について考えます。									
授業計画 【第4回】	子どもの心身③ 子どもの「楽しい」を読み解く（藤本） 子どもの遊びにかくされた心身の発達や社会性の芽生えを、保育・幼児教育の視点から考えます。									
授業計画 【第5回】	子どもの心身④ 子どもの発達とコミュニケーション能力（後藤） 子どもの発達に必要なコミュニケーション能力の育成法をつかみます。									
授業計画 【第6回】	子どもの心身⑤ 子どもの運動の得意・不得意（宮内） 子どもの運動の得意・不得意の現状や、不得意であることによって生じる課題について考えます。									
授業計画 【第7回】	子どもの心身⑥ 子どもの表現（造形）（吉田） 子どもの発達段階と造形表現について考えます。									
授業計画 【第8回】	子どもの心身⑦ 子どもの数概念の発達とつまずき（河野） 乳幼児期の数の概念の発達について知り、子どもたちの算数科におけるつまずきの状況を考えます。									
授業計画 【第9回】	子どもの心身⑧ 子どもの行動と関わりの手立て（石本） 子どもの行動に対する発達心理学的な視点と関わりの工夫について、実践例をもとに考えます。									
授業計画 【第10回】	子どもの心身⑨ 心の育ちと病（山之内） 子どもの心育てるもの、そして心の病について具体例を挙げながら解説します。またストレスへの対処法を紹介します。									

授業計画 【第11回】	子どもの心身⑩ 配慮の必要な子ども（川田） 学校における配慮の必要な子どもの現状と課題について考えます。
授業計画 【第12回】	地域① 子どもの身体の発達を促す地域環境（宮内） 子どもの身体の発達を促す地域環境の現状と課題について考えます。
授業計画 【第13回】	地域② 音楽文化を通した多様性の探究（早川） 音楽を通して世界の様々な文化や社会的背景を学び、多様性を探究します。
授業計画 【第14回】	自然環境① 子どもを育む地球環境とSDGsための教育（遠藤） 現代社会で子どもが晒されている問題をSDGsと地球環境の視点で捉え、教育（ESD）の役割について考えます。
授業計画 【第15回】	まとめ（渡邊） まとめとして、全15回の講義を振り返り、子どもスペシャリストについて考えます。
授業の到達目標	(1) 現代社会で子どもたちが直面している問題について、学科の3本柱である子どもの心身・地域・自然環境という観点から、多面的かつ総合的に理解を深める。 (2) 問題の解決に向かうための「子どもスペシャリスト」の役割について考えることができる。 (3) 問題の解決に携わる「子どもスペシャリスト」へ至るための4年間の学びの見通しについて具体的なイメージを持つことができる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	・予習として、シラバスの次回の内容から、キーワードを見つけたり、そのことについて調べたりして、あらかじめイメージを持って授業に臨みます。
授業時間外学習【復習】	・受講した授業の振り返りを行います。各回で課題が出た場合は、それに取り組めます。
課題に対する フィードバック	振り返りや課題についてのフィードバックは、授業支援ツールを用いて全体や個別に行います。
評価方法・基準	各回の振り返り・課題をもとにした講義者全員の評価を総合して判断します。
テキスト	特にありません。必要に応じて、資料を配付します。
参考書	特にありません。
備考	各回で利用するかどうか未定ですが、毎回コンピュータを準備するようにしてください。